

# 土曜 ライフ・楽しむ

## 噺家の人間国宝 次は誰が



生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



人間国宝とは、重要無形文

化財保持者として個別に認定

された人を指す通称。歌舞

伎、文楽、演芸などの芸能分

野と陶芸など工芸技術に分か

れ、「わざ」そのものが文化

財であり、そのわざを体現で

きる人を人間国宝と呼ぶのだ

そうです。いずれにしても大

変希少な人々なのです。



落語の世界では、5代目柳

家小さん師匠、3代目桂米朝

師匠と10代目柳家小三治師匠

の3人だけです。歌舞伎など

と異なり、噺家の数が少ない

ように見えますが、皆さんは

どうお感じですか。制定され

た1950年代に落語が大い

にはやっていたことから保護

の対象になりにくかった、江

戸と上方というくくりしかな

くわざの細分化が難しかった

た、という話も聞きました。

私は大阪生まれなので、米

朝さんや桂小米(後の2代目

桂枝雀)さんなどの落語を聞

くことから始めました。上

方落語は見台をたたき三味線

や太鼓を鳴らすなどにぎやか

なのが特徴で、その後江戸

落語に出合うと見台もなく渋

くて新鮮に見えたものです。

諸説ある中で、侍が大半の江

戸に生まれお座敷芸として発

展してきた江戸落語に対し

て、上方落語が大道芸として

始まり客の気を引く必要があ

ったから派手でにぎやかだっ

たという説がしっくりきま

す。



話は変わって俳句の話。東

京やなぎ句会という会があ

り、入船亭扇橋、柳家小三

治、江國滋、大西信行、三田

純市、桂米朝、永井啓夫、矢

野誠一、永六輔、神吉拓郎、

小沢昭一、加藤武という各界

のすごい方々が名を連ねてい

ます。多くが鬼籍に入り、今

どうなっているか不明です

が、俳句を肴に月に一度集ま

ってワイワイやるという会で

「友あり駄句あり三十年」な

ど何冊かの本で面白く紹介さ

れています。私は永六輔さん

や小沢昭一さんが好きで、俳

句も少しだけかじったのでそ  
のいくつかを讀みました。  
「俳句とは、これでもいいの  
か」という驚きが素人の句作  
に力を与えてくれたのは間違  
いありません。

米朝さんともこの会に

名を連ねる小三治さんは、も

う1人の人間国宝の小さんさ

んとも弟子と師匠という関

係。今も現役で活躍する小三

治さんの存在感の大きさを改

めて実感します。8月6日付

本紙朝刊で近影を拝見する

と、さすがにお年を召された

感があります。一層のご活

躍を期待してやみません。

この後どなたが人間国宝に

なるか興味は尽きません。

「新作落語」を演じる噺家も

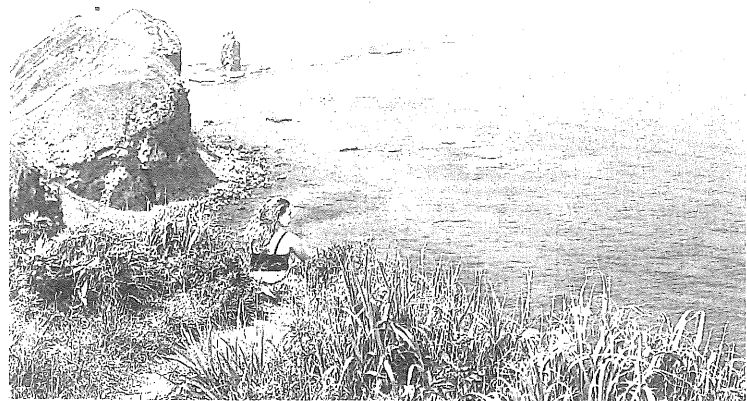
たくさんいます。「古典落

語」に代わり、全く新しい落

語の世界が生まれ、そこに人

間国宝が生まれるのかもしれ

ませんね。



「青い瞳に積丹ブルー」  
一戸健吾さん(札幌市西区)

全日写連